

東欧バルカン諸国の街あかりデザイン考

日大生産工 ○山家 哲雄

1. はじめ

ヨーロッパ大陸の南東部に位置する東欧バルカン諸国は、人種と文明の交差点である。地理・地形的要因により、古代から様々な民族が入り込むと共に、多民族国家による支配の時代が長かったことから諸民族が混在している。このため、諸民族同士の争いが、幾度となく勃発し、東欧バルカン地域は、「ヨーロッパの火薬庫」と呼ばれるに至った。

この度、BALKAN LIGHT 2012（東欧照明国際会議）への出席のため、東欧バルカン諸国を訪ねる機会を得たので、日本では馴染みの薄い「東欧バルカン諸国」の文化と街並み、街あかりに関する学術調査を行った。

今回は、クロアチア共和国とセルビア共和国の文化と街並み、街あかりの学術調査結果を報告する。

2. 東欧概念

「東欧(Eastern Europe)」という表現には、様々な思いが込められており、東欧概念は歴史的産物であるといっても過言ではない。

東欧を地理的概念で捉えると、「エルベ川(die Elbe)」以東に位置するヨーロッパ東部の地域を指し、概念の時代による変化はほとんどみられない。

また、東欧を文化的側面の宗教的概念で捉えると、ヨーロッパ西部からみて東方(オリエント)にあたり、「東方キリスト(Oriental Orthodoxy)」を信仰している地域を示す。さらに、民族的概念で捉えると、「スラブ人(スラヴ語: с л а в а)」が大半を占める地域を指し、宗教的概念と同様に時代によっての概念の変化はみられない。

しかし、東欧を政治的概念で捉えると、戦後世界では思考形式が大きく変わっている。

1989年の「ベルリンの壁」の崩壊に始まり、

旧ソビエト社会主義共和国連邦の崩壊、1990年代初頭代に起こった、旧ソビエト社会主義共和国連邦の衛星国であった「東欧社会主義」諸国家の崩壊、その後のロシア連邦、旧ユーゴスラヴィア社会主義連邦共和国における混乱と民族紛争と、「東欧革命(Revolutions of 1989)」によって各国の共産党政権が連鎖反動的に倒れ、東欧は世界の注目を浴びることになった。

以下に、東欧諸国およびバルカン半島諸国とは何かを概説する。

3. 東欧諸国

古くは、ヨーロッパ西部の資本主義・自由主義圏諸国に対比して、かつての共産主義・社会主義圏に属したヨーロッパ東部地域の諸国を指して「東欧諸国(Eastern European countries)」と呼んでいた。

すなわち、第二次大戦(1939年から1945年)後の冷戦時代(Cold War: 1945年から1989年までの米ソ関係)における東欧諸国とは、国際政治上、西欧諸国と対立関係にあった、旧ポーランド人民共和国、旧チェコスロバキア社会主義共和国、旧ハンガリー人民共和国、旧ルーマニア社会主義共和国、旧ブルガリア人民共和国、旧ユーゴスラヴィア社会主義連邦共和国、旧アルバニア社会主義人民共和国の諸国が位置する地域を指した政治的、人為的な呼称であり、ドイツ統合以前は旧ドイツ民主共和国(東ドイツ)を含めることもあった。

現在(国際連合による分類および地理的分類)における東欧諸国とは、ヨーロッパ東部に位置するポーランド共和国、チェコ共和国、スロバキア共和国、ハンガリー共和国、ルーマニア、ブルガリア共和国の国々に、バルカン半島諸国、旧ソビエト社会主義共和国連邦)の西側にあり、独立したウクライナ、ベラル

A Study on the Urban Lightscape Design in the Balkans of Eastern Europe

Tetsuo YAMAYA



Croatia



図1 クロアチア共和国・首都ザグレブ とドブロヴニクの街あかり



Serbia



図2 セルビア共和国・首都ベオグラードの街あかり

ーシ共和国、モルドバ共和国の国々を加えた地域を指す。

さらにバルト三国（リトアニア共和国、ラトビア共和国、エストニア共和国及びロシア連邦も含め東欧と称する場合もある。

4. バルカン半島諸国

バルカン（Balkan）とは、ヨーロッパ大陸の南東部に位置し、南東ヨーロッパとも呼ばれる地域である。黒海（Black Sea）、エーゲ海（Aegean seas）、地中海（Mediterranean Sea）、イオニア海（Ionian Sea）、アドリア（Adriatic Sea）に囲まれた大半島で、ブルガリア共和国、マケドニア共和国、セルビア共和国、モンテネグロ、クロアチア共和国、ボスニア・ヘルツェゴビナ、アルバニア共和国、コソボ共和国、ギリシャ共和国およびトルコ共和国の一部（ヨーロッパ部分）の諸国からなる地域と定義されている。なお、歴史的な繋がり深いルーマニアや旧ユーゴスラビアのスロベニア共和国をバルカンに含める場合もあり、必ずしも定まった地域概念がある訳ではないと考える。

バルカン半島の北限は、ドナウ川（Danube river）とサヴァ川（Sava river）とされており、その地形は平野が乏しく、大部分が山地で、ディナル・アルプス山脈（Dinaric Alps）、バルカン山脈（Balkan Mountains）、ロドピ山脈（Rhodope Mountains）、ピンドス山脈（Pindus Mountains）などの多くの山脈が連なって走っている。半島の西岸部は、比較的単調な海岸線であるが、南から南東岸の沿岸部は、非常に複雑な海岸線をしている。

バルカン半島では、地理・地形的要因により、古代から様々な民族が入り込む一方、東ローマ帝国、オスマン帝国、オーストリア・ハンガリー帝国といった多民族国家の時代が長かったことから諸民族が混在しており、必然的に宗教も東方正教会、カトリック、イスラム教が混在している。

このため、西欧から単一民族による国民国家の概念がもたらされると、たちまち諸民族同士の争いが勃発し、地域は「ヨーロッパの火薬庫」と呼ばれるに至った。

バルカン戦争、第一次世界大戦、第二次世界大戦、一連のユーゴスラビア紛争などの多くの争いを経験しており、現代においてもボスニア・ヘルツェゴビナ内戦やコソボ紛争など宗教・民族問題を多く抱えているのも現状である。

5. 東欧バルカン諸国の街あかり

クロアチア共和国とセルビア共和国の両国は、西欧諸国と同様に、旧市街と新市街の二つの街並みで構成され、街中に、大きく荘厳な外観の建物が多く残っている。

街あかりは、比較的質素で暗い。モニュメンタルな歴史的建築、ランドマークとなる教会などを主体に、色温度の高い光源を用い、ほどよい明るさで、美しくライトアップされている。街路は、ポール照明、カテナリー照明、ブラケット照明が用いられ、色温度は低い光源が用いられ、落ち着いた雰囲気を満たされている。（図1および図2 参照）

6. まとめ

以上のように、周囲をバルカンの山々に囲まれ、古代より多様な民族と文明の交差点だったクロアチア共和国とセルビア共和国の文化と街並み、街あかりを紹介した。

街中にたたずむ小さな教会を訪ねると、若い方々が祈りを捧げている風景に出会う機会が多い。神への正しい信仰が、日々刻まれる東欧バルカン諸国の時空の中に確りと根を張っている証であると感じた。何よりも、長い間、他国の支配にも屈することなく深く培われてきた「東欧バルカンの魂」そのものではないだろうか。

昨今の、モノが有り余り、24時間止め処なく情報が溢れ、莫大な消費が、「豊かさの象徴である」と捉えるならば、東欧バルカン諸国には、「人々が生活をしている」という原風景があり、街あかり、路あかり（街路照明）がある。自然と共に数々の歴史の変遷の中で、ひっそりと変わることなく、控えめに生活を営んできた東欧バルカン諸国の人々の笑顔は美しい。

《 参考文献 》

- (1) 山家哲雄：「世界の街あかり 第19話 薔薇の国「ブルガリア共和国」の高原都市「女神の都 ソフィア」」、(社)日本照明器具工業会、照明、pp.40-49（2010）
- (2) 細川 滋 著：「世界史リブレット22 東欧世界の成立」、榊山川出版社、pp.1～90（1997）
- (3) 柴 宣弘 編：「新版 世界各国史 18 バルカン史」、榊山川出版社、pp.1～399（2000）
- (4) 柴 宣弘 編：「バルカンを知るための65章」、明石書店、pp.1～346（2005）
- (5) 柴 宣弘 著：「改訂新版 図説 バルカンの歴史」、河出書房新社、pp.1～173（2006）